

キーワード | 医療・介護情報の活用、ICT 活用、OK はまゆりネット、県立病院

かまいし・おおつち医療情報ネットワークの活用による医療・介護連携強化(愛称:OKはまゆりネット)

岩手県釜石市・大槌町(釜石保健医療圏)

【この事例の特徴】

県立病院を中心として、医療圏のほぼすべての病院・診療所、多くの歯科診療所・薬局、ならびに半数以上の介護サービス事業者が参加する情報共有基盤として医療情報ネットワークを整備した。ネットワークの活用により、関係機関における患者・利用者情報の共有や、入院時の情報の申し送りに役立っている。

地域概要

	【釜石市】	【大槌町】
総人口:	37,161 人	12,892 人
65 歳以上人口:	12,774 人(34.4%)	4,066 人(31.5%)
75 歳以上人口:	7,070 人(19.0%)	2,111 人(16.4%)
要介護(要支援)認定者数:	2,454 人(19.2%)	788 人(19.4%)
地域包括支援センター数:	1 か所	1 か所
第 5 期介護保険料:	4,680 円	4,890 円



背景・経緯

【背景】

- 『OKはまゆりネット』の導入は、平成 21 年度に国の認定を受けた「岩手県地域医療再生計画【釜石保健医療圏】(以下、「計画」という。)」に当該事業が盛り込まれたことが直接のきっかけであるが、釜石・大槌地域(以下、「地域」という。)ではそれ以前から地域包括ケアシステムの基盤となる医療・介護連携体制(いわゆる「顔の見える関係」)の構築が進められてきた。
- 地域において医療・介護連携体制の構築が進められてきた背景には、「ネガティブイベントを経験することによる危機意識の共有」がある。東日本大震災津波での被災など、地域にとってマイナスとなる出来事を経験するたびに「このままではいけない」「なんとかしなければ」と医療・介護関係者が危機意識を共有することで、顔の見える関係の構築にむかって取り組んでくることができた。
- 計画に記載された本事業の目的は、「患者及び医療機関の負担を軽減し、地域での医療資源の有効活用を図る」というものだったが、導入にむけて地域で協議を進めていく中で、単なる業務効率化という目的の枠を超えて、医療・介護連携の一層の強化に資するようなものにしようとの機運が高まった。そこで、これまで地域で構築してきた医療・介護連携体制に『OKはまゆりネット』という「新たなツールを加えるもの」と位置づけ、『OKはまゆりネット』への参加対象施設の範囲や連携に必要な機能を模索した。
- **予算等**: (岩手県)地域医療再生臨時特例交付金を活用した財政的支援(計画掲載額 285 百万円)

【経緯】

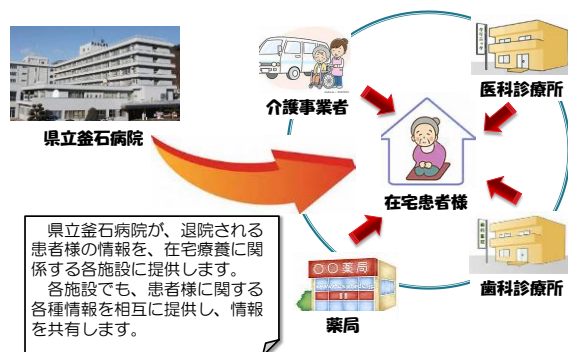
- 平成 21～23 年度 ネットワークシステムの検討作業
- 平成 23 年度 【1st ステージ】県立釜石病院の院内システムの整備
- 平成 24 年度 【2nd ステージ】病院・医科診療所のネットワーク化
- 平成 25 年度 【3rd ステージ】歯科診療所・薬局・介護サービス事業者及び行政のネットワーク化



取り組み内容と方法

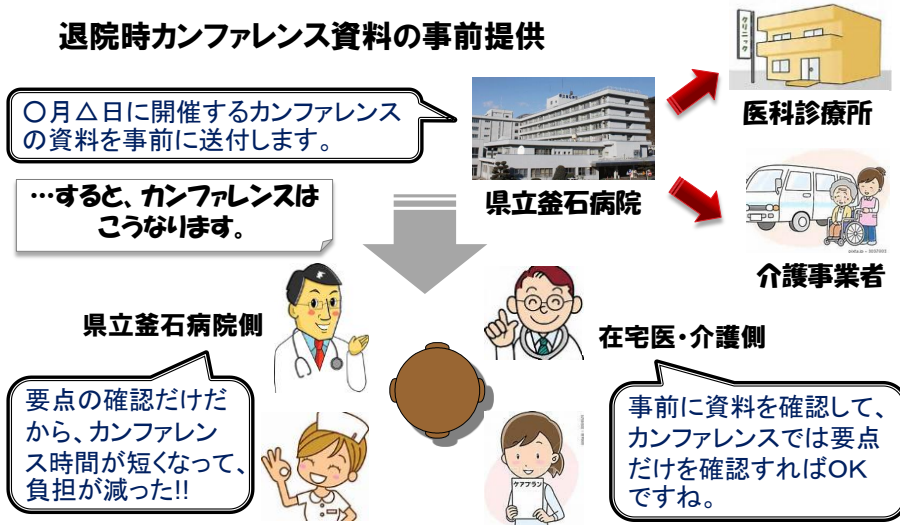
【主な機能】

- 現在稼働している『OKはまゆりネット』の主な機能は次のとおり。
 - ◇ 他の病院及び医科診療所から県立釜石病院の診療の予約ができる。
 - ⇒ 従来から電話やFAXを利用した診療の予約は行われていたが、『OKはまゆりネット』を通じた予約ができるようになった。
 - ◇ 他の病院及び医科診療所から県立釜石病院の栄養指導及び各種検査の予約ができる。
 - ⇒ 各医療機関を受診している患者で栄養指導が必要な方について、県立釜石病院の栄養士に栄養指導を依頼することができるようになった。また、CT、MRIなどの検査が必要な患者についても、県立釜石病院の装置を利用することができるようになった。
 - ◇ 患者・利用者に関する医療・介護関連情報を、関係する医療機関・施設間で共有できる。
 - ⇒ 入院から在宅に移行する患者等について、入院している病院及び退院後に関係するかかりつけ医やかかりつけ薬局、介護サービス事業者などの間で情報等を共有し、その後の診療やサービス提供に役立てることができるようになる。(平成 26 年度利用開始予定)

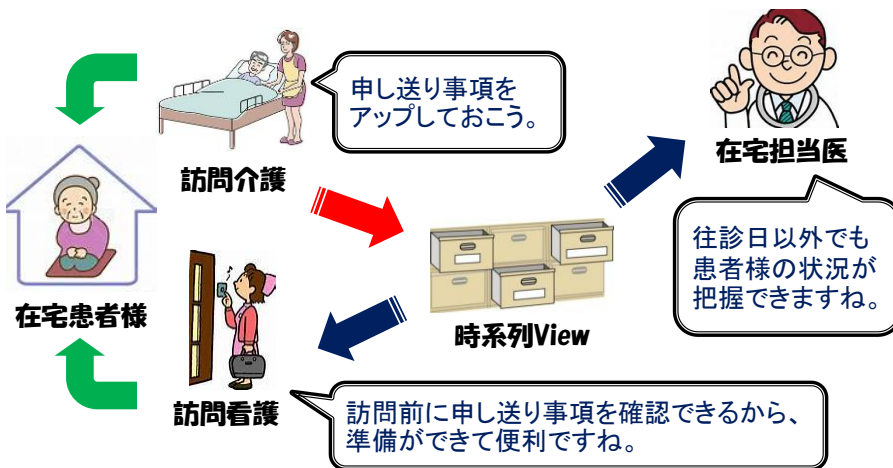


「OKはまゆりネット」ネットワークの利用が想定される場面

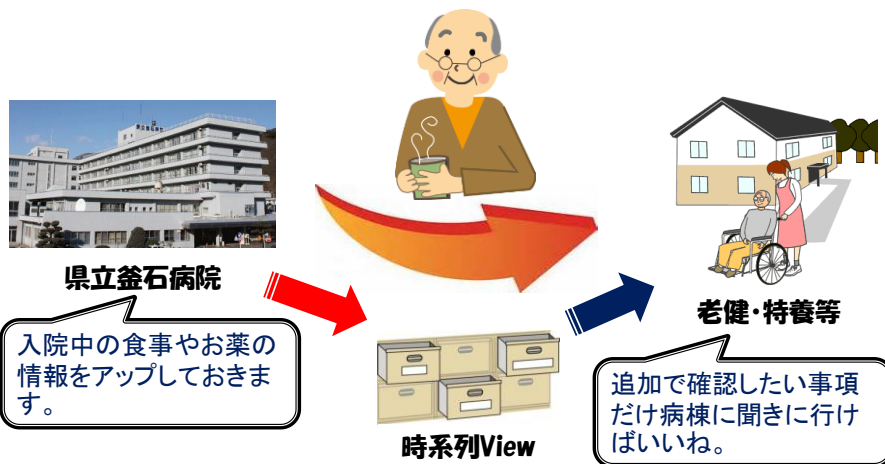
退院時カンファレンス資料の事前提供



連絡ノートの代わりに『時系列View』を活用



患者様の入院時の情報をネットワークで共有



【参加施設】

- (地域の基幹病院でありネットワークの中心として) 県立釜石病院
- その他地域内の病院
- 内科診療所
- 歯科診療所
- 薬局
- 介護サービス事業者
- 行政(釜石市・大槌町・釜石保健所)

【関係機関】

- 地域における保健・医療・福祉・介護の連携や『OKはまゆりネット』の構築及び運用等に取り組むことを目的として、「釜石・大槌地域医療連携推進協議会(以下、「協議会」という。)」を設置した。
- これまでのところ協議会は法人格を有せず、釜石医師会に事務局を置き釜石市・大槌町及び釜石保健所がこれを補佐しているが、どのような体制が望ましいかは今後の検討課題である。
- 協議会の構成団体は以下のとおり。
 - ◇ 一般社団法人釜石医師会
 - ◇ 釜石歯科医師会
 - ◇ 釜石薬剤師会
 - ◇ 社団法人岩手県看護協会釜石地区支部
 - ◇ 釜石・大槌地域に所在する病院
 - ◇ 釜石広域介護支援専門員連絡協議会
 - ◇ 釜石市
 - ◇ 大槌町
 - ◇ 岩手県釜石保健所
 - ◇ その他保健・医療・福祉・介護に関する団体等

【自治体の関わり】

- 岩手県は地域医療再生基金を造成し、計画に基づいて実施する各事業に関する予算を確保・執行している。また上記のとおり、釜石市・大槌町及び釜石保健所は協議会の事務局を補佐している。釜石保健所は岩手県と協議会との橋渡し役を担うほか、システム業者との連絡・調整等も担当している。

取り組みの成果と課題

【取り組みの実績】

- 業務効率化の枠を超えて医療・介護連携の一層の強化に資するねらいを持ち、そのための前段階として、計画が終了する平成 25 年度までに、より多くの医療・介護施設に参加をしてもらうことに取り組んでいる。現在までの参加状況(見込みを含む)は次のとおりである。

◇ (県立釜石病院を含む) 病院	6/6 施設	(100%)
◇ 医科診療所	17/18 施設	(94.4%)
◇ 歯科診療所	13/17 施設	(76.5%)
◇ 薬局	18/20 施設	(90.0%)
◇ 介護サービス事業者	25/47 施設	(53.2%)

【成果】

- 他の病院及び医科診療所から県立釜石病院の診療の予約ができるようになったことにより、県立釜石病院及び患者との日程調整がスムーズに行われるようになるとともに、患者に関する医療情報や保険情報を事前に送付することができるようになり、患者が県立釜石病院を受診する際の待ち時間短縮にもつながった。
- 患者・利用者に関する医療・介護関連情報を、関係する医療機関・施設間で共有できるようになったため、入院から在宅に移行する患者等について、入院している病院及び退院後に関係するかかりつけ医やかかりつけ薬局、介護サービス事業者などの間で情報等を共有し、その後の診療やサービス提供に役立てることができるようになる(平成 26 年度利用開始予定)。

【課題ならびに工夫】

- 東日本大震災津波による取り組みの中断
『OKはまゆりネット』の導入にむけて地域で協議を進めているさなかに発生した東日本大震災津波により、協議そのものが中断を余儀なくされた。一時は平成 25 年度までの計画期間内に事業を完了させることも危ぶまれたが、「いつまでも中断したままではいけない。協議を再開しよう。」との声が地域からあがり、震災から約 4 ヶ月後に協議を再開することができた。
- ランニングコストの費用負担に関する検討
『OKはまゆりネット』の導入に係る費用は地域医療再生基金を活用したが、運用に係るランニングコストは基本的に地域で負担することが前提となる。費用を負担することで当事者意識を高める効果は期待できるが、負担が大きすぎれば『OKはまゆりネット』への参加を阻害する要因になりかねない。「ランニングコストを地域で負担する」ことについては、当初から釜石医師会が中心となってその方向性を明確に打ち出していたため、問題なく関係者様に受け入れられた。その中で誰がどれだけ負担するかという配分について、行政(釜石市・大槌町)及び中心となる県立釜石病院に相応の負担を求め、その他の医療・介護施設については参加の阻害要因となることを避けるため負担割合を抑えるよう配慮した。
- より多くの医療・介護施設に参加してもらうための取り組み
病院及び医科診療所は、診療・検査予約など具体的な利用場面が容易に想定できたこと、また釜石

医師会として参加の意思統一がなされていたことから、ほぼ全ての施設が参加している。一方、歯科診療所・薬局・介護サービス事業者については、「普段の業務のどの場面でどのように活用できるか」「それにより何が便利になり、どのように患者・利用者の役に立つのか」をイメージすることが難しく、ただ参加を呼びかけても見通しは厳しかった。説明会を開催するにしても、システム業者はシステムそのものの説明はできるが、歯科診療所・薬局・介護サービス事業者の業務内容に精通しているわけではないので、具体的な利用場面を想定した説明の実施は困難であった。そこで、歯科診療所・薬局・介護サービス事業者それぞれについて協議会の分科会を開催し、日常の業務や医療・介護連携上感じている課題などを話し合うなどして、具体的な利用場面を提案できるようにした。そのうえで説明会では、保健所が想定される具体的な利用場面について説明し、システム業者がシステムの説明を行うことで、『OKはまゆりネット』の有用性、可能性を理解してもらうよう努めた。釜石歯科医師会や釜石薬剤師会、釜石広域介護支援専門員連絡協議会それぞれに尽力をいただいたおかげもあり、結果として多くの医療・介護施設に参加をしてもらい見込みとなった。

【今後の取り組み予定】

- 協議会の体制についての検討

これまで協議会は任意団体として取り組んできたが、今後『OKはまゆりネット』を地域に根付かせ発展させていくために、現在の体制が適切であるか検討する必要がある。特に行政は担当者の異動があることから、事務局などを地域でしっかりしたものとするためにふさわしい体制づくりについて今後検討していく。

- 利用実績の蓄積と改善

『OKはまゆりネット』を地域に根付いたものとするため、また地域包括ケアシステムの構築の一翼を担えるものとするために、平成 26 年度はまず実際に数多く利用してもらうための方策に取り組む。また、実際に利用した感想や改善提案、利用したことによる成功事例などを地域から吸い上げてより一層使いやすく役に立つものとするために、分科会等を定期的を開催することを予定している。

参考 URL、連絡先

- 岩手県釜石保健所 企画管理課

0193-25-2702

- 釜石医師会 「かまいし・おおつち医療情報ネットワーク」紹介ウェブサイト

<http://www.kamaishi-med.or.jp/net/net.html>